

第04回

- 講演者: 岸 康弘 氏 (愛知教育大学)
 - 題目: 連分数展開における各偶数周期の最小元が持つ性質
 - 平成29年5月12日 (金) 16:30 - 17:30

本講演は, 学習院大学の河本史紀氏, 名城大学の冨田耕史氏及び講演者による 共著論文[Comm. Math. Univ. Sancti Pauli {\bf 64}(2015), no.~2, 131-155]の解説を主とする.

我々の目的はある2次無理数の連分数展開の周期を使って実2次体全体を分類し, 各周期ごとに実2次体の類数を調べることである. とくに各偶数周期の最小元には特徴的な性質が見られ, その中の一つに $\square 2 \leq \ell \leq 73478$ の範囲にある偶数 ℓ に対し, 周期 ℓ の最小元 d_{ℓ} は類数1の実2次体 $\mathbb{Q}(\sqrt{d_{\ell}})$ を与える」という数値結果がある.

本講演では, 連分数の基本的な性質から始め, 各偶数周期の最小元が持つ「極小型, ELE型」と呼ばれる性質についての解説を行う. また, 最近得られた関連する結果を述べる.



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

5 images

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2017/004>

Last update: 2017/11/18 22:22

